



News Release

報道関係者各位

公益財団法人微生物化学研究会
微生物化学研究所

<http://www.bikaken.or.jp>

平成 30 年 3 月 23 日

日本一高品質な科学論文を効率的に発表した研究 機関にランキング (Nature Index 2018)

このたび発表された Nature 誌の特別企画冊子「Nature Index 2018 Japan」において、微生物化学研究所（微化研）は、2012-2017 年の 6 年間に、自然科学分野において高品質な科学論文を効率的に発表したわが国のすべての研究機関中第 1 位にランキングされました。

Nature Index では 2014 年から毎年、主要な科学雑誌に発表された論文をもとに世界の研究機関の貢献度を国、研究分野、研究機関ごとなどに集計しランキングとして発表しております。

最新の Nature Index の分析では、日本からの高品質な科学成果発表が引き続き減少していることが報告されておりますが、微化研では、従来の感染症やがんの治療薬の研究開発に加え、新規不斉触媒反応開発の研究、オートファジー関連タンパク質の構造生物学的研究等の分野で高品質な科学論文を発表しています。

■Nature Index FAQ

<https://www.natureindex.com/faq>

■Nature Index 2018 Japan

<https://www.natureindex.com/supplements/nature-index-2018-japan/index>

■ランキング表

<https://www.natureindex.com/supplements/nature-index-2018-japan/tables/institutions>

微生物化学研究所について

当研究所は、故梅澤濱夫博士（当時国立予防衛生研究所抗生物質部長、東京大学応用微生物研究所教授）が発見した新しい抗生物質カナマイシンの特許料を基に1958年12月に設立され、1962年に微生物化学研究所を建設し、梅澤博士を所長として研究活動を開始しました。以来、様々な抗生物質の探索研究が行われ、イネのいもち病の防除薬であるカスガマイシン、制がん抗生物質ブレオマイシン、免疫促進物質ベスタチン等を含む、70品目を超える抗菌抗生物質、40品目を超える制がん抗生物質、50品目を超える酵素阻害物質、数品目の免疫系に作用する物質が発見されました。さらに、ストレプトマイシンやカナマイシンなどのアミノグリコシド抗生物質に対する耐性菌の耐性機構の研究を世界に先駆けて行い、耐性菌に広く有効なカナマイシン誘導体（ジベカシン、アルベカシン）の合成に成功しています。このように、本研究所では、微生物学、医学と有機合成化学が密接に協力して研究を行っています。また科学・技術の振興と人材育成を図り、研究成果を踏まえ、人類等の疾病の予防及び治療、食料資源の維持・確保、地球環境の改善などに関する生物的、化学的研究開発事業を展開しています。

お問い合わせ

微生物化学研究所(微化研) 知的財産情報室 室長 山崎勝久

電話:03-3441-4173(代表) E-mail:yamazakik@bikaken.or.jp